

評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所名	グループホーム フェニックスの里		
所在地	下関市大字小野64番地の1		
電話番号	083-263-2088	事業所番号	3570101448
法人名	社団福祉法人 暁会		

訪問調査日	平成 21 年 5 月 29 日	評価確定日	平成 21 年 8 月 4 日
評価機関の 名称及び所在地	特定非営利活動法人やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク 山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		

【情報提供票より】

(1)組織概要

開設年月日	平成 15 年 4 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員計	9 人
職員数	8 人	常勤 3 人 非常勤 5 人 (常勤換算 7.8 人)	

(2)建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート	造り
	3 階建ての	~ 1 階部分

(3)利用料等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃	月額 25,350 円	敷金	無	円
保証金	無	円	償却の有無	有 / 無
食費	朝食	250 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	200 円
その他の費用	月額	5,900 円		
	内訳	光熱水費		

(4)利用者の概要 (4月29日現在)

利用者数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
	要介護1	2名	要介護4	1名	
	要介護2	2名	要介護5	0人	
	要介護3	4名	要支援2	0人	
年齢	平均 83.6 歳	最低	73 歳	最高	93 歳

(5)協力医療機関

協力医療 機関名	内科 勝山サテライトクリニック ・ 昭和病院 歯科 昭和病院 歯科
-------------	--------------------------------------

(優れている点)

利用者一人ひとりの状態に応じて、個別や2~3人のグループ、車いすでの対応等利用者の希望、季節や、地域の行事など外出を楽しめる支援をしておられます。又、職員間のコミュニケーションがよく取れており、ミーティング時にも意見が出やすく、ケアの悩み等充分話し合っておられます。

(特徴的な取組等)

食事の大切さを職員が理解し、三食とも施設内で作り、買い物・準備・後片づけ等利用者と職員が協力してするとともに、畑で採れた野菜や地域の人から届けられた野菜を使つての献立や、好みも配慮し、楽しみや喜びから利用者の力の発揮や職員も同じ食事を食し、利用者のより良い関係づくりを深めておられます。

【重点項目への取組状況】

(前回の評価結果に対するその後の取組状況)

外部評価の結果を受け、全職員で話し合い、研修への積極的な参加に取り組んでおられます。勤務の一環としての研修参加や、法人の研修参加、事業所独自の勉強会の実施等職員を育てる支援をしておられます。

(今回の自己評価の取組状況)

昨年度の自己評価を基に、職員全員に外部評価の意義や必要性を説明し全体会議を1回行い、意見交換後、まとめは管理者がしておられます。職員間での検討会は行っていませんが、ケアの振り返りやサービスの質の向上について職員の意識が変わり始めています。

(運営推進会議の取組状況)

2か月に1回実施し、地域包括支援センター職員、民生委員、自治会長、利用者家族の代表、職員等の出席で外部評価の報告、利用者の状況、活動内容について意見交換をされています。

(家族との連携状況)

毎月発行のホーム便りに利用者の暮らしぶりや健康状態、年4回は担当者がコメントを書き、請求書や夏祭りや文化祭等の行事案内を送付し、参加を促しておられます。面会時に家族の要望を聞いたり、行事の後、利用者・家族・職員との交流する時間をもち、情報提供をしてもらっています。

(地域との連携状況)

法人で行う夏祭りや文化祭に地域の人が参加交流をされています。公民館で実施される「いきいきふれあい教室」(2回/月)に参加し、作業療法士や音楽療法士の指導を受け体操や歌を歌ったりと地域の人と共に楽しんでおられます。保育園児や小学校児童の訪問等交流があり、利用者の喜ぶ顔が見られる等地域との交流に努めています。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取 組みを期 待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>・理念に基づく運営 1. 理念の共有</p>			
1 (1)	<p>地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。</p>	<p>「従来の理念のままで良いのか、地域の中でその人らしく暮らし続ける事とは」をミーティングや会議で話し合っているが、具体的結果が出るまでの検討にはいたっていない。</p>	<p>・地域密着型サービスとしての理念の検討</p>
2 (2)	<p>理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>理念を事務室や廊下に掲示し、管理者は、会議や日々の関わりの中で理念について伝え、全員が理念を共有し実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	
3 (7)	<p>地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>地域の公民館で行われる『いきいきふれあい教室』へ月2回参加している。児童や保育園児、大学生との交流、研修医の見学、地域の文化祭に習字等の作品の出展、散歩時の挨拶や近隣の人々の来訪や野菜等の差し入れなど、地域の人々との交流も日常的に行われている。</p>	
<p>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</p>			
4 (9)	<p>評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	<p>管理者が外部評価等の意義を説明し、自己評価について検討している。具体的な改善については、出来るところから始め、サービスの質の向上についての実践に向けて取り組んでいる。</p>	
5 (10)	<p>運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。</p>	<p>自治会長、民生児童委員、地域包括支援センター所長や利用者の家族の代表が参加し、2か月に1回行っている。利用者の状況、行事報告や自己評価や外部評価の報告を行い、意見交換をしている。</p>	<p>・メンバーの拡大 ・会議の内容や進行の検討</p>
6 (11)	<p>市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	<p>介護保険課との情報交換や相談等で連携している。法人全体としての連携も出来ている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践する為の体制			
7 (16)	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	毎月発行のホーム便りに、利用者の写真を沢山載せ、担当職員が(年4回)利用者の状況を手書きして送付している。医療等必要とする事はその都度電話で報告している。又、年賀状や暑中見舞いも出している。	
8 (18)	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。	相談、苦情を受け付ける窓口として、職員や外部機関、第三者委員を重要事項に明示し、苦情処理の手続きを明確にしている。廊下等目に付く場所にも掲示し、家族には手紙や来訪時に意見や要望を問いかけている。	
9 (20)	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	日中は3~4人体制であるが、状況に応じた対応が出来るように公休出勤や希望休等で利用者のペースに合わせたローテーションを組んでいる。有給、産休、育休の福利厚生も整っている。夜間の緊急時には医療連携の看護師との連携体制があり、必要時には法人内の医師や看護師とも連携している。	
10 (21)	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、変わる場合は利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	利用者が馴染みの職員による支援が受けられるよう異動は殆ど無く、離職も抑える努力をしている。離職者が出た場合は1ヶ月程度の重複期間を経て、3か月後ぐらいより夜勤体制シフトに入るようになっている。夜勤は1~2回の重複をし、利用者のダメージを防ぐ配慮をして、家族にも説明している。	
5. 人材の育成と支援			
11 (22)	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	業務の一環としての研修参加や公休を利用しての自主研修参加、法人内の教育研修会の参加、接遇、感染症等新人研修への参加をし、復命している。グループホーム独自の勉強会等学ぶ事を推進し、研修内容を報告する機会を作っている。	
12 (24)	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	山口県宅老所・グループホーム連絡会に加入し、研修や交流会に参加したり、ブロック研修にも参加する事で、同業者との情報交換をしている。又、法人内のグループホームとの連携・交流・事業所見学等で質の向上に取り組んでいる。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>・安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>			
13 (31)	<p>馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得の上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気などに徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。</p>	<p>利用前の説明、見学やショートステイやデイサービスからの利用、空室のある場合は体験も出来る。他の施設利用者や入院中の入所希望者には、今居られる所への訪問等で、徐々に馴染めるよう工夫して取り組んでいる。</p>	
<p>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</p>			
14 (32)	<p>本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。</p>	<p>支援する側、支援される側という意識を持たず、縫い物、畑での野菜づくり、その日の献立づくりなどの食事の準備、後片づけなど、職員と一緒に穏やかに行き、味付けや漬け物の作り方を習ったり、昔の遊び唄などの生活の技や文化を教えてもらったり、お互いに感謝の言葉を掛け合い、支え協力し合う関係を築いている。</p>	
<p>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握</p>			
15 (38)	<p>思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	<p>入居時の生活歴、家族からの情報、日々の関わりの中での会話や表情などから本人の思いを聞き、職員の気づきも含め、記録し、毎日のミーティングの中で職員が共有し、希望や意向の把握に努めている。</p>	
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>			
16 (41)	<p>チームで作る利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。</p>	<p>日頃の関わりの中で、利用者や家族の思いや意見を聞き、反映させるために、月1回のカンファレンスで職員の意見交換やモニタリングをし、本人の立場に立った介護計画を作成している。</p>	
17 (42)	<p>現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行なうとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。</p>	<p>短期・中期・長期と介護計画の遂行状況、効果などの評価をし、状態変化、家族・本人の要望に応じて見直しを行い、現状に即した新しい計画を作成している。</p>	
<p>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</p>			
18 (44)	<p>事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。</p>	<p>病院への受診時の送迎や付き添い、隣接施設を利用したのパーリハビリ、ふるさと訪問支援、個別外出支援、入退院の支援など、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
19 (49)	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	利用者のかかりつけ医との関わりを大切に、家族と協力し受診支援をしたり、必要に応じ訪問医療や訪問歯科診療など、状況に応じて適切な医療が受けられるよう支援している。	
20 (53)	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	契約時に重度化した場合の事業所の方針を伝え、職員全員で方針を共有している。終末の支援に対する指針を定め、支援方法等を家族やかかりつけ医や医療関係者と職員で話し合っている。	
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
21 (56)	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	法人の研修受講、接遇マニュアル、管理者、施設長の指導で、全職員がプライバシーについての認識を持っており、利用者の誇りやプライバシーの対応について徹底を図っている。記録物は事務所内の鍵のかかる書庫に入れている。	
22 (59)	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	基本的な一日の流れはあるが、一人ひとりの希望や体調に配慮しながら、その日の利用者の気持ちや体調に合わせ、食事、入浴、起床等個別性のある支援をしている。	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
23 (61)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	三食とも調理を職員と利用者が一緒に行っている。食材の切り込み等得意分野を活かし、準備、食事、後片づけを皆で一緒に楽しみながら行っている。届けられた野菜や畑で採れた野菜も食卓にあがり、肉や魚は希望を聞いたり、他の食べものに変えたり楽しく食事が出来るよう支援している。残飯も殆どない。	
24 (64)	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	希望すれば毎日入浴できる。午後3時～5時の時間帯で見守りや声かけをして、利用者の好む時間にゆっくりと入浴できるよう支援している。体調に応じ清拭・足浴・シャワー浴等も行っている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
名で			
25 (66)	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	書道、生け花、お手玉、歌、草取り、編み物、畑づくり、体操、食事の準備、後片づけ、洗濯物たたみなど利用者の豊かな暮らしを支えるために、一人ひとりの活躍する場面づくりにも配慮し、個別の楽しみごとや気晴らしの支援をしている。	
26 (68)	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	買い出しに一緒に行ったり、周辺の散策、お花見や外出など、一人ひとりのその日の希望に添ったり、季節や地域の状況に応じて、外出を楽しめるよう支援している。それ以外にも外に出たい人へは、職員がさりげなく本人の気持ちに寄り添い、見守り支援している。	
(4)安心と安全を支える支援			
27 (74)	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が、「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	法人の身体拘束委員会での研修等で全職員は正しく理解、共有して、抑制や拘束のない支援に取り組んでいる。日々のケアの中で施設長や管理者の指導で自覚しない拘束等について点検し、指導している。	
28 (75)	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	全職員は鍵をかける事の弊害を理解している。外出傾向のある利用者の対応は職員間で話し合い、見守りや声かけをして自由な暮らしを支援している。ドアの開け閉め時にはチャイムがなるよう工夫している他、法人全体の協力体制もある。	
29 (78)	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	マニュアルがあり、事故報告書に記入し、対策を検討し予防につなげている。一人ひとりの状態を把握、記録し事故に繋がらないよう支援している。些細な事故も家族に報告し説明している。	
30 (79)	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	緊急対応マニュアル、応急手当マニュアル等を作成し、看護師から指導を受けたり、消防署の協力を得て、AEDや救急救命法の講習を受けている。救急車対応についても話し合っている。	
31 (81)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	法人全体で年2回、利用者全員参加で避難訓練(昼夜想定)を行い、避難場所の確認や消火栓の使用訓練をしている。運営推進会議で地域の方からの協力の申し出があり、検討中である。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
32 (84)	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。	個々の既往歴、現在の健康状態、治療状況、薬の情報(目的・副作用・用量)等はファイルを通じて全職員が把握している。服薬は必ず二人で確認し、手渡しと確実な服用を支援している。必要な情報は医師へフィードバックしている。	
33 (86)	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力量に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。	毎食後歯磨きやうがいの声かけをし、職員が見守りや介助をしている。就寝前には義歯を預かり、洗浄、消毒、保管の支援をしている。月2回、訪問歯科診療があり、歯科衛生士の指導を受けている。	
34 (87)	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事量、水分量をおおまかに把握している。管理栄養士の指導を受け、栄養バランス等にも配慮している。一人ひとりの体調や好みに応じてきざみ食やお粥の対応の支援もしている。	
35 (88)	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。	法人の研修委員会の研修の実施、マニュアル等の作成、掃除を徹底(居室の洗面台・ドアノブ・手すり・トイレの消毒)し、布団やリネンも週1回ダニ消毒、手洗い(ペーパータオル使用)、うがい等法人よりの情報伝達で予防対策を徹底している。	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
36 (91)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	玄関まわりには、季節の野菜を植え、共用空間には色々な所に生花が置かれたり、誕生会やお花見など楽しい笑顔いっぱいの写真を貼り、楽しい思い出を語り合える工夫をし、季節感や生活感がある。広い廊下でミニテーブルやソファ、手すりも多く移動し易い。浴室は広く、利用者が快適に過ごせ、職員は介護し易い工夫がされている。	
37 (93)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ベットや棚はホームの設備だが、馴染みの家具や仏壇、花や趣味のものを置き、落ち着いて過ごせるような工夫をしている。	

自己評価書

【ホームの概要】

事業所名	フェニックスの里
所在地	下関市大字小野64-1
電話番号	083-263-2088
開設年月日	平成 15 年 4 月 1 日

【実施ユニットの概要】 (4 月 29 日現在)

ユニットの名称				
ユニットの定員	9 名			
ユニットの 利用者数	9 名	男性 0 名	女性 9 名	
	要介護 1	2	要介護 4	1
	要介護 2	2	要介護 5	
	要介護 3	4	要支援 2	
年齢構成	平均 83.6 歳	最低 73 歳	最高 93 歳	

【自己評価の実施体制】

実施方法	定例会議において、外部評価の目的、必要性、自己評価の意味や重要性についての説明を行う。評価見直しを行い、管理者が総合的に判断し、記入を行う。
評価確定日	平成 21 年 4 月 29 日

【サービスの特徴】

山の緑に囲まれた田園地帯の中にあり、自然に恵まれ、とても閑静な場所に位置しています。複合型介護施設のひとつですが、ホームの中は木が使われており、また、共有空間には、畳敷きのスペースや障子もあり、家庭的で明るく、開放的な雰囲気です。食事は三食とも、ホームで作っており、買い出しや食材の切り込み、食器洗い等、入居者がすすんで参加され、いきいきとした表情が見られます。散歩や体操、パワーリハビリにより、身体機能の維持を図り、また書道や生花教室、漢字や計算など様々なメニューを用意しています。また、外出行事も積極的に行い、お花見や外食にて、めりはりのある生活をしています。入居者一人ひとりに目を向け、少しでもその人らしく、共に支え合える生活を目指し、日々努力しております。

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
理念に基づく運営 1. 理念の共有			
1 (1)	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。		
2 (2)	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。		
3	運営理念の明示 管理者は、職員に対し、事業所の運営理念を明確に示している。		
4	運営者や管理者の取り組み 運営者や管理者は、それぞれの権限や責任を踏まえ、サービスの質の向上に向け、職員全員と共に熱意をもって取り組んでいる。		
5	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい			
6	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらえようような日常的な付き合いができるよう努めている。		
7 (3)	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。		地域の行事の参加を増やす。
8	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。		今のところ、そういう視点での話し合いはしていない。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
9	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	評価の意義を説明し、全員で取り組んでいる。	
10 (5)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。	2ヶ月に1回運営推進会議を開催し、その中で情報交換を行ったり、評価の報告を行っている。	
11 (6)	市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。	行き来する機会はありません。	
12	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用するよう支援している。	支援センターの職員と連携をとり、必要性について話し合う機会を持っている。	
13	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	そのようなことがないように常に注意を払い、職員間で何でも話し合える雰囲気をつくっている。	
4. 理念を実践するための体制			
14	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約したりする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	利用者や家族の話を傾聴し、不安や、疑問点を引き出し、できるだけ早く信頼関係が築けるように努めている。	
15	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	面会時には必ず声をかけ、苦情や要望がないか気軽に話しができるように心掛けている。	
16 (7)	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	利用者の暮らしぶりや健康状態、職員の異動等は、家族の来訪時やケアカンファ、またホームだよりにてこまめに報告している。毎月のホームだよりには、担当者が年4回手書きでコメントを書いている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
17 情報開示要求への対応 利用者及び家族等からの情報開示の要求に応じている(開示情報の整理、開示の実務等)。	外部評価の結果などは、玄関に置き、いつでも見られるようにしている。また他でも要望のあった時は、応じるようにしている。		
18 (8) 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。	苦情、相談の窓口や職員、第三者委員会等を重要事項説明書やホーム玄関に明示し、手続きを明確に定めている。面会時には苦情や不満に耳を傾け、すぐにその対応策を話し合うようにしている。		
19 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	ミーティングや定例会議にて、意見や提案を聞く機会を設け、反映させるようにしている。		
20 (9) 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	日中は3～4名体制で、柔軟な対応が可能である。緊急時は、法人内の看護師と連携がとれている。		
21 (10) 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	職場環境を整え、離職者を最小限に抑えるように努力している。法人内での異動はあるが、利用者へのダメージができるだけ少なくなるように配慮している。		
5. 人材の育成と支援			
22 (11) 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	新人オリエンテーションを実施し、理念や運営方針についての理解を深めている。法人にて外部研修に参加し、月2回の研修発表にて、職員への伝達を図っている。教育研修委員会があり、接遇や感染症についての研修を年7回程度実施している。		研修への積極的参加を行う。
23 職員配置への取り組み 多様な資質(年代、性別、経験等)をもった職員を配置することにより、多様な利用者の暮らしに対応している。	30代から50代の幅広い年代の職員、社会福祉士・介護福祉士・デイサービス経験者・特養経験者等を配置し、多様に対応している。		
24 (12) 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	グループホーム連絡会の勉強会など機会のあることに参加し、情報交換をするとともに、ネットワークの構築に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。		
26	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。		
27	職員の業務に対する適切な評価 運営者は、高い専門性やリスクを要求される管理者や職員の業務に対し、処遇等における適切な評価に努めている。		
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
28	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。		
29	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。		
30	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
31 (13)	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
32 (14)	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。		個人の力を見極め、活躍できる場をふやしていく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
33	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	来訪時やケアカンファの時は、家族方に現在の様子やエピソードを話し、話題を共有して共に喜んだり、悩んだりしている。		
34	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	今までの生活歴や家族との関係について、本人や家族から良く話を聞くとともに、ケアマネージャー等からも、情報収集して理解し、よい関係が築けるように支援している。		
35	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	家族や知人の訪問を歓迎し、いつでも気軽に話しができる雰囲気作りをしている。希望があった時には、自宅に帰ってみたりしている。		
36	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	利用者の性格や気の合う人を把握し、一人ひとりが孤立せず、関わりを持ちながら、穏やかに生活できるように気配りしている。		
37	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	退所後も、時折連絡したり、併設施設への紹介をおこなったりしている。		
ちやい				
38 (15)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入所時に一人ひとりの思いや希望をできるだけ具体的に聞く機会を設けたり、日々の言動から意向を把握するように心がけ、職員間で共有している。		
39	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	本人や家族から話を聞くとともに、ケアマネージャー等からもできるだけ情報を得るようにしている。		
40	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	一人ひとりをよく観察し、その状態や現状を職員間で情報交換し、記録に残して、全員が把握できるようにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
41 (16)	チームで作る利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	本人や家族の来所時にケアや暮らし方の希望を聞き、カンファレンスにて意見や気づきを話し合い、介護計画を作成している。	
42 (17)	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	基本的には3ヶ月ごとに見直しを行っているが、変化が生じた場合には、できるだけすばやく対応策を検討・決定し、毎月の会議にて見直しを行っている。	
43	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々記録に残し、出勤時には必ず目を通し、情報を共有している。個別記録の中に介護計画書を挟み込み、常に意識をし、見直しを行うようにしている。	
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
44 (18)	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	併設施設の看護師との医療連携体制や作業療法士によるパワーリハビリ、マッサージなど希望に応じた柔軟な支援をしている。	
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
45	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	本人の意向に応じて、地域の文化祭に参加したり、生け花展の鑑賞に出かけている。	
46	事業所の地域への開放 事業所の機能を、利用者のケアに配慮しつつ地域に開放している(認知症の理解や関わり方についての相談対応・教室の開催、家族・ボランティア等の見学・研修の受け入れ等)。	施設はいつでも開放しており、見学及び相談を受け入れている。また、大学生の研修、小学生の交流訪問、研修医の見学を行っている。	
47	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他の介護支援専門員やサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	必要に応じて利用できるように用意している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。		
49 (19)	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。		
50	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。		
51	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員(母体施設の看護師等)あるいは地域の看護職(かかりつけ医の看護職、保健センターの保険師等)と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。		
52	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。		
53 (20)	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。		
54	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。		
55	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
56 (21)	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。</p>	一人ひとりの誇りを大切にし、職員全員がプライバシー保護に関する認識をしっかりと持ち、きちんと丁寧に声掛けしている。記録物は保管庫で保管している。	
57	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	思いや希望を言い表しやすいように、できるだけゆっくり話しかけ、待つ姿勢を大切にしている。	
58	<p>“できる力”を大切にされた家事への支援</p> <p>家事(調理、配膳、掃除、洗濯、持ち物の整理や補充、日用品や好みの物などの買い物等)は、利用者の“できる力”を大切にしながら支援している。</p>	食材の切り込み、後かたづけ、掃除、洗濯干し、洗濯物たたみなど、できることはできるだけおこなって頂くようにしている。	
59 (22)	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	一人ひとりの希望や体調により、テレビを見たり、編み物をしたり、散歩に出かけたり、できるだけ利用者のペースを大切にしている。	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
60	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	利用者と一緒に服を選んだり、家族と一緒に行きつけの美容院に行く方もいる。訪問美容も利用している。	
61 (23)	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	食材の切り込みや食器洗いなど、一緒に行っている。	
62	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて、日常的に楽しめるよう支援している。</p>	毎日のティータイム時に希望を聞いたり、本人に合わせて甘い牛乳を用意したりしている。また誕生日には、本人の希望を聞き、食べたい物をメニューに取り入れている。	
63	<p>気持ちのよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。</p>	排泄のパターンを把握し、トイレ誘導を行い、排泄の失敗を減らすように努めている。また、プライドを尊重し、その方に合わせた声掛けと援助を行っている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
64 (24)	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	清拭やシャワー浴、足浴等柔軟に対応している。	
65	安眠休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり、眠れるよう支援している。	疲れた時などは、遠慮無く自室でテレビを見たり、休んだりできるように環境を整え、声掛けしている。	
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
66 (25)	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	生活歴や現在できること、できないことを把握し、その方にあった家事や手芸を提供している。また、書道教室や生花教室を行っている。	
67	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や状態に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	外出行事の時には、本人の希望をききながら、一緒にお金を使ったりしている。	
68 (26)	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	買い出しや外気浴、また散歩に出かけたり、できるだけ戸外に出るように心掛けている。	
69	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	毎月外出行事を行い、外の空気に触れている。また、希望があれば、個別で自宅まで帰ってみたりしている。家族と外食したり、ドライブに行く方もいる。	グループ、個人での外出の機会を増やす。
70	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	本人の希望があれば電話したり、手紙を投函したりしている。年賀状や暑中見舞いは自筆で書いてもらっている。	
71	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	家族、知人の方を笑顔で迎え、今の様子を一緒にお話したり、居室でゆっくりと過ごして頂けるように、環境を整えたり、お茶を差し上げたりしている。	
72	家族の付き添いへの支援 利用者や家族が家族の付き添いを希望したときは、居室への宿泊も含め適切に対応している。	希望時はいつでも対応できるようにしている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
73	家族が参加しやすい行事の実践 年間の行事計画の中に、家族が参加しやすい行事を取り入れ、家族の参加を呼びかけている。		
(4)安心と安全を支える支援			
74 (27)	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。		
75 (28)	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。		
76	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。		
77	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。		
78 (29)	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。		
79 (30)	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。		
80	再発防止への取り組み 緊急事態が発生した場合や、発生の可能性が見られた時には、事故報告書や”ヒヤリはっと報告書”等をまとめるとともに、発生防止のための改善策を講じている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
81 (31)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。		
82	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
83	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。		
84 (32)	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。		
85	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。		
86 (33)	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。		
87 (34)	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。		
88 (35)	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。		
89	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
90	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関周りには、季節の野菜や果物を植え、常に清潔を心掛け、明るい雰囲気になっている。	
91 (36)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	観葉植物や生花を置いたり、季節にあった装飾を行っている。また、利用者の作品や行事の写真などを掲示し、居心地よく過ごせるように工夫している。	
92	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	たたみの空間やミニテーブルがあり、自由に過ごせる場所を確保している。	
93 (37)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	なじみの家具や仏壇、花や趣味の物を置き、落ち着いて過ごせるようにしている。	
94	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	換気はこまめに行い、新鮮な空気を取り入れるように心掛けている。室温は、室温計で確認し、利用者の要望も聞きながら、調整している。	
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
95	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送ることができるように工夫している。	廊下には手すりが設置してある。また、できるだけ安全に過ごして頂けるように、整理整頓に心掛けている。	
96	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	混乱や失敗を招かないように、トイレの場所をわかりやすく示したり、手作りのカレンダーを見える場所に設置したりしている。	
97	建物の外周や空間の活用 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	花を植えたり、水まきや草取りを一緒に行っている。また、建物の周りを散歩し、花を眺めたり、摘んできたりしている。	

項目		取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと)	
. サービスの成果に関する項目			
98	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	ほぼ全ての利用者の 利用者の1 / 3 くらいの	利用者の2 / 3 くらいの ほとんど掴んでいない
99	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。	毎日ある たまにある	数日に1回程度ある ほとんどない
100	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
101	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
102	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
103	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
104	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
105	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。	ほぼ全ての家族等と 家族の1 / 3 くらいと	家族の2 / 3 くらいと ほとんどできていない
106	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。	ほぼ毎日のように たまに	数日に1回程度 ほとんどない
107	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	大いに増えている あまり増えていない	少しずつ増えている 全くいない
108	職員は、生き活きと働けている。	ほぼ全ての職員が 職員の1 / 3 くらいが	職員の2 / 3 くらいが ほとんどいない
109	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
110	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	ほぼ全ての家族等が 家族等の1 / 3 くらいが	家族等の2 / 3 くらいが ほとんどできていない